

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	流山市立つばさ学園			
○保護者評価実施期間	令和6年10月15日 ～ 令和6年11月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数)	24人
○従業者評価実施期間	令和6年10月15日 ～ 令和6年11月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	63人	(回答者数)	60人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	市の施設であり、児童発達支援センターとして、関係機関と連携をとりながら総合的な支援を行うことができる。	・相談支援専門員・心理士等・保育士・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の多職種と連携を図り支援を行っている。	専門職を含めたケーススタディ検討の充実を図ることで、よりこどもや家庭環境等への多面的・総合的な支援を目指す。
2	子育て支援やインクルーシブ推進の役割を担っている。	・地域の保育所や支援学校との交流会を実施し、ともに学び、成長し合うことで社会性を育んでいる。 ・並行通園先の保育園や幼稚園、医療機関等との情報共有を行いながら、適切な支援を目指す。	・交流会対象年齢の幅を広げ交流の機会を増やす。 ・地域住民に対して園庭など戸外での交流をとおして、当センターの存在感やこどもの社会性の向上を目指す。
3	集団をとおして、こどもの全体発達を考えた支援を継続して行う。(医療的ケア児を含む。) 給食、バス送迎あり。 対象：全体発達に課題のある3～5歳児のこども	クラス制。先生や友達と一緒に安心できる環境で、基礎運動とあやし・ゆさぶり遊びを支援の柱として、その他様々な経験をとおり、全体的な発達を促す。	・障害特性を踏まえたクラス設定をし、発達上のニーズに合わせた支援を行う。 ・クラスとは別に発達段階に合わせたグループ活動を行い、発達の課題に沿った支援を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	サービス提供頻度について。	・水曜日の短縮日課及び長期休暇により支援が削られてしまうことがある。	・短縮日課及び長期休暇の期間を見直し、支援時間を確保する。
2	保護者との連絡手段・電子化等について。	・保護者との連絡手段や連携方法が紙ベースであることなどアナログな手段となっている。	・連絡アプリの活用等、電子化を検討していく。
3	施設環境について。	・立地が不便。 ・複合施設であるため、セキュリティに弱さがある。	・来所案内についてはパンフレットやアプリ等で引き続き留意していく。 ・他課と協議をしながら、セキュリティについて留意していく。